

(株)メイドー日本語パートナー研修会

【日時】10月28日(火) 第一部 17:15~18:15、第二部 : 18:30~19:30

【場所】(株)メイドー

【授業担当(プログラムコーディネーター)】第一部 : 北村祐人、蜂須賀真希子

第二部 : 中村直子 奥村由実

1. とよた日本語学習支援システムとは

概要 :

このプロジェクトは、豊田市に住んでいる、または豊田市で働いている外国人の日本語学習を支援するという豊田市の事業で、現在、名古屋大学が豊田市から委託を受けて、平成19年度の実態調査に始まり、今年度から具体的な教室運営を始めているプロジェクトです。今後も、企業内、地域内で日本語教室を開いていく予定なのですが、このメイドーが第2教室目です。

目的 :

このプロジェクトの目的として、外国の人にとっては日本語を話す、学ぶ機会を得るということ。日本人にとっては、外国人とのコミュニケーションの仕方を学んでもらうということの2点がいえます。

そして、地域、企業にとっては、日本語を使って交流をし、日本人にとっても外国人にとっても住みやすい地域、このメイドーで言うと、働きやすい職場にするとということが目的となるかと思えます。

2. 日本語パートナーの役割

このプロジェクトでは日本語を学ぶ外国人と会話をする日本人(もしくは日本語の上手な外国人)を「日本語パートナー」と呼びます。教室に日本語を学びに来ている外国人は「学習者」と呼びます。

⇒日本語パートナーとは？

- ・教えるという立場ではなく、ともに学ぶという姿勢が大事。
- ・正しい日本語を教える(又は指導する)教師ではなく、日本語で真のコミュニケーションを行うパートナーとして、日本語学習者と接する。
- ・日本語を使う機会を多く与える。学習者は使う過程で試行錯誤しながら理解し、その結果、日本語を使う技術を身につける。

⇒具体的には？

- ・まずは自分のことを話す。それによって、学習者も「何を、どう言えば、自分のいいたいことが伝えられるか」を知るヒントとなる。
- ・一度で伝わらなくても、どういうふうになれば自分のいいたいことが伝わるか、試行錯誤しながら相手が理解できるまで伝える努力をする。
- ・相手がすぐに自分のいいたいことが伝えられなくてもとにかく「待つ」。相手が自分の持っている力を駆使して伝える努力をするのを「待つ」。
- ・質問するときにも、答えるときにも、教科書的、教師的な受け答えではなく、本当に知りたいこと、聞きたいことを聞き、答える。それにより、新たな話題・興味が広がり、知りたいという気持ちが生まれるかもしれない。そのことが日本語を学びたいというモチベーションにつながる。
- ・安易に翻訳に頼らない。それにより、学習者にとっても、日本人にとっても「わかりやすい日本語」を使う能力が身に付く。

最初の「目的」のところにも書きましたが、外国の人にとっては日本語を話す、学ぶ機会を得るということはもちろん、日本人にとっても、外国人とのコミュニケーションの仕方を学ぶ場であるということが、この教室の特徴です。

「日本語の文法的な説明はできないなあ・・・」と心配される必要はありません。文法的な質問への対処は各クラスのプログラムコーディネーターの役割です。

日本語パートナーの皆さんは、外国の方との会話を楽しみ、気持ちを「伝えたい/伝わらない」を体感してください。

3. 教室活動の流れ

教室活動の流れはこのようになっています。

<教室活動の流れ> (計 60 分)

ー0:05	入室→名札装着→着席
0:00～	個人レベルでの内容の活性化
0:05～	グループレベルでの内容の活性化
0:10～	プログラム・コーディネーターによる実演 (テーマの確認とモデル会話)
0:15～	ペア/グループワーク① →各ペア/グループでミニ意識化
0:25～	ペア/グループワーク② →各ペア/グループでミニ意識化
0:35～	ペア/グループワーク③ →各ペア/グループでミニ意識化
0:45～	ペア/グループワーク④ →各ペア/グループで今日のまとめ
0:50～	学習者のワークシートを記録用に写真撮影
0:55～	今日の一言 (ポルトガル語・スペイン語・中国語)
1:00	終了→学習者退室
～1:10	日本語パートナーとのふりかえり→解散

1) 開始から(個人・グループ)での内容活性化まで

- ①まず、来たら今日の学習のワークシートと名札をもらって着席してください。
- ②人が集まるまでの間、テーマについて自分が話したいことを一人ずつ考えます。
- ③次にペア/グループ(日本人は日本人同士、外国人は外国人同士)でテーマについて話し合います。教室に来て、「さあ、今日はあなたの夢を語ってください。はい、どうぞ。」と言われても、困りませよ。まずは②で個人的に考え、次に③で、参加者同士で、自分が考えていたことを話したり、相手の話しを聞いたりして、話の「ネタ探し」をします。

2) プログラムコーディネーターによる実演

次に、プログラム・コーディネーターがテーマについての確認とモデル会話を行います。これは、あくまで「話しのスタート」を示す一例であり、必ずしもそういう会話をしてくださいということではありません。実際の学習者とのコミュニケーションではみなさんが伝えたいことを話していただいて構いません。

パートナーにとっては、どのような工夫をすれば、学習者とやり取りができるのかの目安に、学習者にとっては、日本人がどんな日本語を使うのかの目安にしてもらうためのものです。

パターンは2種類あります。どちらになるかは、テーマによってプログラムコーディネーターが、よりわかりやすいものを選択して準備します。

(モノローグタイプ)

PC:「私は中村です。」(名札を見せる)
「出身は山口県です。」(地図を描く)
「今、日進市に住んでいます。」
「(家は日進市です。)」(絵などで)

(会話タイプ)

PC:「私は中村です。(名札を見せる) 中村です。」
「あなたは？」
S:「私、ガブリエル…です。」
PC:「出身は山口県です。(地図を描く)」
「出身は山口県です。」(地図を指しながら)
「ガブリエルさんは？」
「ブラジル…」

3) ペア／グループワーク→ミニ意識化

プログラムコーディネーターの実演が終わると、学習者とパートナーがペアまたはグループになって、会話を始めます。

このペア／グループワークは、だいたい1回10分くらいでグループを交替していきます。それを2～3回繰り返します。交替する前にそこで話したことをもう一度確認します。(書きたい人は書いてもいいし、言えるだけでいいという人は言うだけでもいいです。) 次のグループに移る前に、学習者は一つでも自分の言いたいことが言えるようになったか、パートナーはどう伝えたら分かりやすかったかなどを再確認し、次のグループに移ったとき、それを土台にして会話が始まり、より広い内容のやり取りができるようにしていきます。こうして、グループが変わるたびに、学習者の言えることが積みあがっていくというイメージです。

終了時間5分前になったら、最後のペア／グループ内で、その日のまとめを行います。ワークシートに今日勉強した言葉や表現を学習者が記入してもいいし、また、その日に話し合ったことを、もう一度話してもいいです。

4) 自己評価記入欄

学習者はクラス活動の最初と最後に、学習者自身でワークシートの「自己評価」を記入します。そのとき、パートナーの人はきちんとかけているかどうか確認し、わからないようであれば書き方などを教えてあげてください。

5) 「今日の一言」(ポルトガル語・スペイン語・中国語)

一回につき1～3語くらいの単語(or表現)を、メイドーの担当の方がポルトガル語・スペイン語・中国語の三言語で紹介していただきます。

6) 日本語パートナーとの振り返り

前半クラス、後半クラス、ともに10分程度の振り返りの時間を設けています。

クラス活動終了後、プログラム・コーディネーターとパートナーで活動の感想や気づき、反省など少し話せたらいいなあと思っています。基本的に出席していただきたいですが、出られない場合は決して強制ではありません。

「日本語が全くわからない人と日本語で会話をする」一見すると矛盾しているこの活動の中に、コミュニケーションの醍醐味が隠されているように思います。

たとえば、文ではなくて、単語にする。「わかりやすい言葉」に変える。ゆっくり言う。絵を見せる。身ぶり手ぶり、辞書を引くなど、いろいろな方法があると思います。どうすれば、学習者が理解できるのか、いろいろ考えて工夫してみてください。

また、「あなたの名前は何か？」と聞くのではなく、まず自分のことを言うのも工夫の一つです。聞いてばかりだとお互いを理解するのではなく、一方的に問い詰めることになってしまいがちです。「私は北村です。あなたは？」と手のひらを見せ、答えを促すだけで、「ガブリエル・・・」と名乗ってくれることもあります。

《教室概要》

【期間】平成20年11月4日～平成21年1月27日のうち、毎週火曜日(全10回)

1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回	8回	9回	10回
11/4	11/11	11/18	11/25	12/2	12/9	12/16	1/13	1/20	1/27

【クラス／時間】

Aクラス 17:15～18:15(60分)

Bクラス 18:30～19:30(60分) ※どちらの教室も食堂にて開催

※1. 参加可能な日時/時間帯のみで結構です。

※2. 毎回教室の入り口に「パートナー出欠表」が置いてあります。ご自身の参加予定をご記入いただき、変更があった場合は、メーリングリストか名古屋大学留学生センター衣川研究室までご連絡ください。

名古屋大学留学生センター 衣川研究室 Tel/Fax 052-789-4700

とよた日本語パートナーズ メールアドレス toyota-j-partner@yahoogroups.jp

【参考】とよた日本語学習支援システム HP <http://www.toyota-j.com/>